

新学術領域研究「神経系の動作原理を明らかにするためのシステム分子行動学」

若手研究者海外派遣プログラム報告書

京都大学生命科学系キャリアパス形成ユニット江島グループ 特定研究員 井下 強

出張先：Neurofly meeting 2012、フランス国立農業研究所訪問

イタリア・パドヴァ・Centro Congressi Padova、フランス・ヴェルサイユ・国立農業研究所・Frederic Marion-Poll 研究室訪問

この度、若手研究者海外派遣プログラムの助成により、Neurofly meeting への参加とフランス国立農業研究所での研究室訪問をさせていただきました。

今回の Neurofly meeting は、世界最古の植物園や解剖室を有する静かで穏やかな伝統ある学術都市パドヴァで開催され、5 日間にわたり 51 名の話者による講演、口頭発表と 239 題のポスター発表が行われました。いずれの口頭発表も、最新の結果や現在進行中の研究内容を含んだ興味深い発表で、質疑応答や議論も熱を帯びたものでした。そのため、設定時間を超えてしまうことも度々ありましたが、休憩時間などが長めにとられており個別の議論も活発に行われていました。ポスター発表の場でも、聴衆の多さから目的のポスターに近づくことも難しいほどでした。私自身のポスター発表にも関連する分野の研究者に訪れていただき、有意義な議論ができ、気づいていなかった視点も生まれ、今後の研究の進展に役立つ時間でした。

学会後には、フランスに移動し、ヴェルサイユ宮殿の敷地の一角に作られた国立農業研究所で、昆虫の化学感覚の電気生理学的研究を行っている Frederic Marion-Poll の研究室を訪問させていただきました。何台もの様々な電気生理記録用機器があり、ハエやガの味覚、嗅覚応答の記録を行っている研究室で、実際の実験手法について、試料の準備から記録取得・解析まで、電気生理学的手法の全般について詳細に説明していただくことができました。また、新しく始めた昆虫食に関する研究についても紹介して頂き、非常に興味深く有意義な訪問となりました。

今回の meeting と研究室訪問における数々の貴重な体験は、新学術領域研究「神経系の動作原理を明らかにするためのシステム分子行動学」の研究代表者である東京大学大学院理学系研究科の飯野雄一教授、ならびに領域事務担当の石澤和子様のご支援によって得られたものです。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

